

中国農業銀行の株式上場と不良債権問題

王 雷 軒

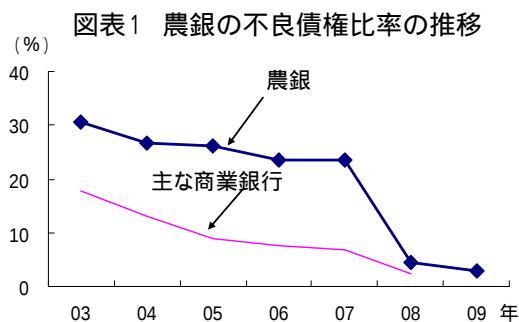
はじめに

4 大国有商業銀行のうち、中国建設銀行、中国工商銀行、中国銀行は、05 年～06 年にかけて次々と株式上場を果たした。未上場であった中国農業銀行（以下、農銀という）も、10 年 7 月に上海、香港の両証券取引所に上場した。

このように農銀は、ほかの国有商業銀行に比べて、かなり遅れた上場となった。その大きな要因は、農銀が農業分野への貸付を義務付けられており、都市部への融資と違い資金の回収がままならず、不良債権比率（不良債権残高/貸付残高）が極めて高かったことにあると思われる。

低下した農銀の不良債権比率

農銀の不良債権比率は、主な商業銀行（4 大国有商業銀行 + 株式制商業銀行（交通銀行など））に比べて、かなり高いものとなっていた（図表 1）。



（資料）中国農業銀行の「年度報告」、「中国金融年鑑」各年より作成。

（注）年度末データ、主な商業銀行の09年の不良債権比率が公表されていない。

03 年 12 月末には、主な商業銀行の不良債権比率は 17.9% に対し、農銀の不良債権比率が 30.6% と、非常に高かったことがわかる。しかし、農銀の不良債権比率は、08 年末には 4.3% へ急低下し、両

者の間にあった大きな差が縮小した。

その背景には、08 年に、財政部（日本の財務省に相当）と中央汇金（国有の大きな投資機関家）が、農銀へ合計 2,600 億元（約 380 億ドル）の資本注入を行い、さらに財政部は農銀の 6,651 億元の不良債権を買い取った（当該不良債権の回収事務などは農銀が行う）。さらに、中国人民銀行（中央銀行）も農銀の 1,506 億元の不良債権に見合う無利息貸付を実施し、農銀支援を行った。

また、08 年末からの政府の景気対策による資金需要の高まりで農銀の新規貸付額が大きく増加したことも、不良債権比率の低下に貢献した（09 年末 2.9%）。ただし、同じ時点のほかの 3 大銀行よりは高い（3 行ともに 1.5%）。

こうした多額の資本注入と不良債権の処理によって、農銀の株式上場が可能となった。新規上場による市場からの資金調達額は 221 億ドルに達し、これまで最大だった中国工商銀行（219 億ドル）を上回り、世界最大の新規株式公開になる見込みである。

おわりに

足枷となっていた不良債権問題が解消され、農銀の上場は無事に終わった。しかし、農銀は、前記のように、農業関係の貸出先が多いため与信管理能力の向上が必要であり、また経営の透明性確保や経営責任の明確化を含むガバナンスの強化も不可欠である。これらが整備されないと、不良債権問題が再び発生する可能性もある。